

4. これからの保護林制度

・国際基準への対応

原則全ての保護林について、国際基準として認知された保護地域の管理目的に応じたカテゴリ（IUCN：国際自然保護連合が定めるものなど）に分類した上で、世界各国の保護地域の情報を集約したデータベース（「世界保護地域データベース」など）への登録を進めることで、**国際基準における保護林の位置づけを明確に**します。
※現在、森林生態系保護地域のみ、IUCNカテゴリに分類され、世界保護地域データベースに登録されています。

・愛知目標の成果「陸域の17%」への位置付け

生物多様性条約を効果的に実施するための世界目標となる「戦略計画2011-2020（愛知目標）」では、2020年までに陸域・内陸水域の17%を保護地域の設定等により保全することが目標として設定されています。上記のデータベースへの登録を済ませ、ひいては保護林を**愛知目標の成果**として位置付けることを予定しています。

・民有林との連携

今後設定しようとする保護林について、**近隣の民有林と一体として森林生態系を保護・管理**できる場合には、あらかじめ関係地方公共団体に対しその保護林の目的、手法を説明し適宜助言することで、保護・管理水準の確保に努めるなど、必要に応じて民国連携の取組を進めていきます。

表紙について

背景…雲仙ツツジ（ミヤマキリシマ）【普賢岳生物群集保護林】

円形写真…上から

- ・ヤマシャクヤクの群落
- ・白紫池と韓国岳
- ・縄文杉
- ・イリオモテヤマネコ

【九州中央山地生物群集保護林】

【霧島山生物群集保護林】

【屋久島森林生態系保護地域】

【西表島森林生態系保護地域】

九州・沖縄の保護林について、ご意見・ご質問ありましたら、下記問合せ先まで、お気軽にご連絡ください

【問合せ先】

九州森林管理局 計画課

住所：熊本市 西区 京町本丁 2-7

電話：096-328-3620

九州森林管理局 保護林HP→「九州局 保護林」で検索！

<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/>



九州・沖縄の

保護林



林野庁
九州森林管理局

1. 保護林ってなに？

日本は国土面積の約7割が森林という、世界有数の森林国。林野庁では、この森林のうち約3割つまり国土面積の約2割を、「**国有林**」として管理・経営しています。

そして、原始的な天然林をはじめとした、**生物多様性保全の核**となる国有林野を「**保護林**」として、**厳格な保全管理**に取り組んでいます。平成27年4月1日現在、全国で855カ所、約97万haの保護林があります。

保護林の目的は・・・

- 森林生態系からなる自然環境の維持
- 野生生物の保護
- 遺伝資源*1の保護
- 森林施業・管理技術の発展
- 学術の研究などに資することです



世界自然遺産において重要な役割を果たしています

我が国では現在、**屋久島**、白神山地、知床、小笠原諸島の4地域が世界自然遺産に登録されています。その陸域の**9割以上が保護林**であり、保護林が**保護担保の根幹**をなしています。登録以前から保護林として厳格に保護・管理されてきたからこそ、世界に認められる類いまれな自然美などが残されたのです。



100年以上にわたり日本の貴重な森林を保護してきました

保護林制度は国有林野独自の制度として、大正4年に天然記念物*2や国立公園*3といった他の保護制度に先駆けて誕生しました。初期に設定された保護林の多くが、後に天然記念物や国立公園などに設定されており、**保護林が我が国における保護地域の基礎を構築した**といえます。以来、時代の要請に合わせ制度の改正、区域の拡充を重ねながら、貴重な森林を保護・管理し続けています。



奄美群島森林生態系保護地域

*1 遺伝資源：資源として利用されている、さるる生物中の遺伝子のごとで、バイオテクノロジー等による利用開発の基盤となる
 *2 天然記念物：史跡名勝天然記念物保存法（現・文化財保護法）に基づき大正8年に制度化
 *3 国立公園：国立公園法（現・自然公園法）に基づき昭和6年に制度化
 *4 森林管理局：全国の国有林を適正な管理・経営するための林野庁の地方支分部局で、北海道から九州まで7局ある

希少個体群保護林

県	名称	保護対象	県	名称	保護対象
福岡	ひこさん 英彦山スギ等遺伝資源	スギ、ケヤキ、モミ、ツガ、カヤ	大分	ごんげんだけ 権現岳シオジ等遺伝資源	シオジ、ケヤキ、ブナ
	ひこさん・つくいず 英彦山・鶯モミ等	暖帯性の代表的林相		ひよどりやま 兵戸山モミ等遺伝資源	モミ、アカシデ、ミズナラ
	たけなやま 立花山クスノキ遺伝資源	クスノキ原生林		ぼかづる 坊ガツルサワグルミ等遺伝資源	サワグルミ、ミズメ、ハルギリ
	こいしほら 小石原スギ遺伝資源	行者スギ		くろだけ 黒岳ミズメ等遺伝資源	ミズメ、ブナ、アカシデ、ハルギリ、ヤマザクラ、イタヤカエデ
	あみふや 行者スギ	スギ老齢林		かしわやま 柏山アカマツ遺伝資源	アカマツ
	いぬがだけ 犬ヶ岳ブナ等遺伝資源	ブナ、ミズナラ、イヌシデ		あおいしやま 大石榎山アカガシ等	ミヤマシキミ - アカガシ群集
	いんたきやま 音滝山アカマツ等	アカマツ、クロマツ等の広葉樹天然林		ふたがみ 二上ケヤキ	ケヤキ優良天然林
	おおぞ 大根地アカガシ等	カシ類、タブノキ等の広葉樹天然林		かしば 檜葉アカマツ等遺伝資源	アカマツ、ヒメコマツ、コウヤマキ、ミズメ、ミズナラ
	しよはた 上畑タブノキ等	タブノキ、シイ類等の広葉樹高齡天然林		あす 尾鈴アカマツ等遺伝資源	アカマツ、コウヤマキ、イチイガシ、タブノキ
	わかすきやま 若杉山スギ	スギ老齢林		あす 尾鈴コウヤマキ	コウヤマキ
佐賀	かりの 狩倉スダジイ等	シイ類、タブノキ等の広葉樹天然林	宮崎	くみやま 国見山ツガ	ツガ・コウヤマキ・アカガシ等が生育する林分
	とせんざん 唐泉山スダジイ遺伝資源	スダジイ		ぼんしやま 双石山タブノキ等遺伝資源	タブノキ、ツブラジイ
	うきだけ 浮岳アカガシ遺伝資源	アカガシ		あおいだけ 青井岳カヤ遺伝資源	カヤ大径木
	せふりやま 脊振山ブナ等	暖帯性の代表的天然林		はちぼ 八久保イチイガシ遺伝資源	イチイガシ
	やすみ 山砥スダジイ等	天然広葉樹		にじり 鏡尻ツブラジイ等遺伝資源	ツブラジイ、スダジイ、イスノキ、イヌマキ
	くせんふやま 九千部山ブナ等	ブナ、アカガシ等からなる天然広葉樹林		くすみ 楠見イチイガシ遺伝資源	イチイガシ
	つたつらやま 豆蔵龍良山スダジイ等遺伝資源	スダジイ、イスノキ、アカガシ、イヌマキ		しげな 重永カヤ等遺伝資源	カヤ、ケヤキ、ミズメ、ウラジロガシ
	つたないんたつらやまかんざき 豆蔵内院龍良山神崎スダジイ等	スダジイ、イスノキ群落の暖地性照葉樹林、ナクオレノキ群落		し 四家イチイガシ	イチイガシ人工林
	みたけ 御岳ツシマヤマメコ	ツシマヤマメコの生息地		あすい 三ツ岩オビスギ遺伝資源	オビスギ
	つしましるど 対馬白猿アカガシ等	アカガシ群落、チョウセンヤマツツジ、イワシデ、ゲンカイツツジ等		あおやの 大矢取クスノキ等遺伝資源	クスノキ老齢林、イチイガシ
長崎	かやせ 雲瀬スギ	スギ老齢林	たきざん 滝山スダジイ等	滝山の天然林	
	かやせ 雲瀬ヒバ	ヒバ老齢林	ひやみず 冷水イチイガシ等遺伝資源	イチイガシ、アカガシ、シラカシ、イスノキ、タブノキ、ツブラジイ	
	おぼ 小浜クスノキ	クスノキ老齢人工林	ひやみず 冷水サツマシダ等	シダ類及び暖帯林の代表的林分	
	のだけ 野岳イヌツゲ	イヌツゲ群落	しげざん 紫尾山ブナ等遺伝資源	ブナ、モミ、アカガシ、ウラジロガシ、アカシデ	
	すいげん 水源スギ等	旧藩時代植栽のスギ、ヒノキ老齢林	ひなこしだ ヒノコシダ	ヒノコシダ	
	きたむきやま 北山山スギ等遺伝資源	スギ、コナラ、クスノキ、ウラジロガシ、クマシデ	かわぞえ 川添タブノキ等遺伝資源	タブノキ、ミズメ、クマシデ、イスノキ、シラカシ、アカガシ、スダジイ	
	おこひら 大河平モミ等遺伝資源	モミ、ウラジロガシ、ミズメ、タブノキ、イスノキ	たかの 高野スダジイ等	スダジイ等巨木が生育する自然性の高い植物群落	
	きんぼつざん 金峰山スギ等	スギ、ヒノキ、サワラの老齢林	かみの 神野イスノキ遺伝資源	イスノキ	
	かりまたやま 雁俣山モミ等	モミ、ツガ等の広葉樹	やまぞえ 山添タブノキ等遺伝資源	タブノキ、イスノキ、マテバシイ、スダジイ	
	おしむた 吉無田スギ	スギ老齢林	どうがわら 洞河原タブノキ等	タブノキ及びハツカラシ、オオクニワタリ等の希少な着床植物	
熊本	ないだいにん 内大臣ゴイシツバメシジミ	ゴイシツバメシジミの生息地	たねがしま 種子島ヤクタネゴヨウ等	ヤクタネゴヨウ等の種子島の代表的天然林	
	ふれぎしだ フクレギシダ	フクレギシダ	むせたがわ 早稲田川ヤクタネゴヨウ	ヤクタネゴヨウ	
	くまの 久木野アカガシ等遺伝資源	アカガシ、ウラジロガシ、イチイガシ、ツブラジイ、タブノキ	せきりがわ 瀬切川ヤクタネゴヨウ	ヤクタネゴヨウ	
	いちふさ 市房モミ等	市房山の中枢となる山頂周辺の原生林	あまみくろ 奄美群島アマミクロウサギ等	アマミクロウサギやトゲネズミ等の希少動物の生息地	
	いちふさ 市房ツガ等遺伝資源	ツガ、ヒメコマツ、サワグルミ、ケヤキ	おもむら 面縄リュウキュウマツ遺伝資源	リュウキュウマツ	
	いちふさ 市房ゴイシツバメシジミ	ゴイシツバメシジミの生息地	ふなうら 船浦ニッパヤシ	ニッパヤシ群落	
	しやかいん 釈迦院スギ	釈迦院スギ			
	くすこち 崩川内モミ等	モミ、ツガ等の広葉樹			
			沖縄		
				合計：75カ所、4,010ha	

九州・沖縄の保護林一覧表

(平成30年4月1日以降)

森林生態系保護地域		
県	名称	保護対象
大分 宮崎	そぼさん・かたむきやま・おおくえやま 祖母山・傾山・大崩山周辺	主として冷温帯に属し、モミ、ツガ、ブナ、ミズナラ等からなる、相当程度のまとまりをもった、原生的な天然林
	あや 綾	原生に近い自然生態系を残し、照葉樹の群落としては日本最大級のまとまりをもった、多数の希少種を含め貴重な動植物が確認されている照葉樹林帯
鹿児島	いなおだけ 稲尾岳周辺	日本を代表する原生的な暖温帯性常緑広葉樹林(照葉樹林)
	やくしま 屋久島	日本の森林帯の中では、暖帯広葉樹林帯の最南位に当たり、標高2000mに近い山岳島という特殊な自然条件のため、亜熱帯から亜寒帯までの植生垂直分布の見える、相当以上のまとまりをもった原生的な天然林
	あまみくんとう 奄美群島	奄美群島でしか見られない特徴をもった原生的な天然林(亜熱帯性広葉樹林)及びアマミクロウサギやルリカケス等の大陸遺存種が生育・生息している重要性の高い地域
	いりおもてしま 西表島	マングローブ、スタジイ、タブノキ、オキナワウラジロガシ等からなる、植物群落全体の種構成が原生林に極めて近く、学術的にも非常に価値が高い、相当程度まとまりをもった原生的な天然林(亜熱帯性広葉樹林)
合計：6カ所、50,563ha		

生物群集保護林		
県	名称	保護対象
長崎	ふげんだけ 普賢岳	イタヤカエデ、ノリウツギ、ナナカマド等からなる広葉樹林
	だんじょくんとう 男女群島	暖温帯性広葉樹林
	しらがたけ 白髪岳	モミ、ツガ等広葉樹の高齢天然林
熊本 宮崎	きゅうしゅうちゅうおうさんち 九州中央山地	太平洋ブナ林がある程度まとまりをもって分布するとともに、一部に湿性タイプのブナ林が見られ、また希少な野生生物が生育・生息している等、優良で特異なこれらの生物遺伝資源
宮崎	おにのめやま 鬼の目山	スギ、アカマツ、ヒメコマツ、アカシデ
	かもんだけ 掃部岳	日本の暖温帯の常緑広葉樹であるヤブツバキクラスの森林と、その中に形成されているシラキーブナ群集、ミヤマシキミーアカガシ群集等
	おおもりだけ 大森岳	ヤブツバキクラスの森林を大面積に残し、様々なタイプの森林植生や多くの照葉樹林構成要素の種が見られる、暖温帯モンスーン域の照葉樹林
	きりしまやま 霧島山	森林・草原・荒原状等といった植生遷移の各段階が存在し、それらに応じ、キリシマミツバツツジやキリシマタスキノシヨクタイ等の霧島山固有種や、ミヤマキリシマの大群落、ノカイドウ、アカマツの巨木林及び照葉樹林等多様な植物の分布が見られる等、森林と一体として自然生態系を構成する豊かな生物遺伝資源
鹿児島	たかくまやま 高隈山	分布の南限である温帯性動植物種が多く、1,000m以上の連座する山の尾根部にある日本の植生中南限のミズナラ、ブナ群落等の冷温帯性落葉広葉樹林等、高齢級天然林が存在する森林及び、そこに生息する温帯性昆虫類等の動物相を含めた、生物遺伝資源
合計：9カ所、16,274ha		

整備・保全のための対策を実施しています

「保護林等整備・保全対策」として主に以下の予算事業を、必要に応じて実施しています。

- ・モニタリング
保護林の状況を把握し、評価するため、「保護林モニタリング調査マニュアル」に基づいてモニタリング調査を行っています。マニュアルは林野庁HPからご覧になれます。→(「保護林 マニュアル」で検索！)
- ・植生等回復措置
保護林内の植生が荒廃している場合などの緊急措置として、保護柵の設置や、土壌安定のための措置、被害木の除去、移植などを行っています。
- ・保全推進措置
保護林の保全・保護などに関して入林者や地域の皆さまなどにより意識していただくため、制札の設置や資料の作成・配布などを行っています。
- ・巡視
希少種の保存、植生の復元・維持のため実施しています。



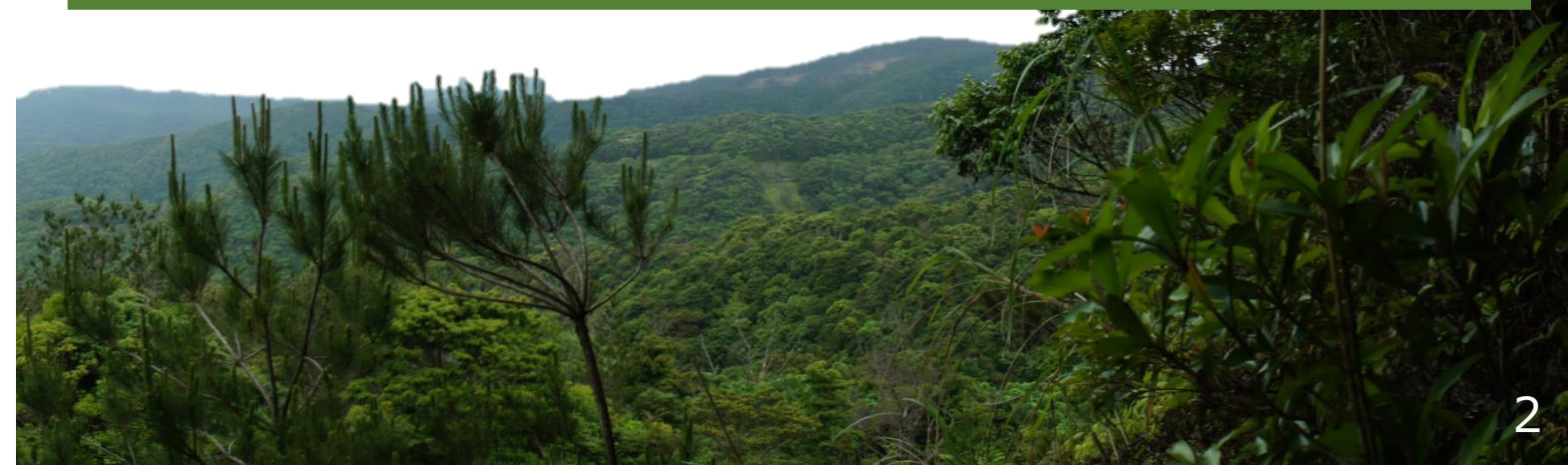
巡視の様子

緑の回廊

保護林の生物多様性保全の取組を強化する制度として「緑の回廊」があります。

- ・野生動植物の生息・生育地を結ぶ移動経路を確保することにより、個体群の交流を促進し、種や遺伝子の多様性を保全することを目的とし、**保護林を相互に連結**
- ・平成12年に国有林野事業において制度化
- ・平成28年4月現在、全国に24カ所、約58万ha設定
- ・緑の回廊内では
 - 野生生物の**生育・生息環境に配慮した森林施業**
 - 野生生物の移動実態や森林施業との因果関係を把握するための**モニタリング調査**などを実施
- ・九州森林管理局管内では**綾川上流(宮崎)**と**大隅半島(鹿児島)**に2カ所、計3,664ha設定
→位置図はP 8ハ

緑の回廊のイメージ図



保護林には3種類あります

保護対象に応じて以下の3種類に区分し、適切な保護・管理を行っています。

※当区分は平成27年度の制度改正で創設されたもので、現在、保護林をこの新区分に再編成する作業を各森林管理局にて行っています。九州局の保護林がこの区分になるのは平成30年度からです。

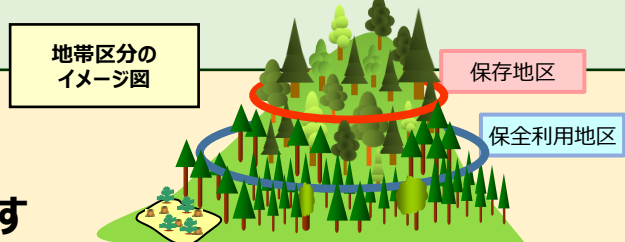


森林生態系保護地域

そこに暮らす動植物から地形まで まるごと保護します

- ・我が国の気候帯、森林帯を代表するような原生的な天然林を保護・管理
- ・上記のような天然林を主体とした、森林生態系としてまとまりをもつ区域を設定
- ・保存地区と保全利用地区に地帯区分（ゾーニング）

→原生自然と人間の生活空間が近距離にあっても保護を図ることが可能に
保存地区：保護地域の核（コア）として、最も厳格に保護・管理（原則、自然の推移に委ねる）
保全利用地区：周辺地域から保存地区への影響の緩衝（バッファー）としての役割



生物群集保護林

そこに暮らす動植物をまとめて保護します

- ・地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理
- ・自然状態が十分保存された天然林など、地域固有の生物群集が存在する区域を、場合によっては以下のような復元の取組が今後見込まれる森林を周辺部に含めて設定
- ・自立的に復元する力を失った森林について、専門家の意見をふまえて、長期にわたる森林施業を行うことで、潜在的な自然植生を基本とした生物群集へ誘導し、復元
- ・森林生態系保護地域と同様、保存地区と保全利用地区に地帯区分（ゾーニング）

希少個体群保護林

希少な動植物種をスポット的に保護します

- ・他の区分の保護林に含まれない区域にある、以下のような野生生物の個体群の生育・生息に必要な森林を保護・管理

- 希少化している ○分布限界域等に位置する ○他の個体群から隔離されている（同種個体群）
- 遺伝資源の保護を図りたい ○草地、湿地、高山帯、岩石地等、特殊な立地条件の下に成立している
- 温暖化等の影響により将来的に消失が懸念される など

・以下のような野生生物保全管理手法が必要に応じて実践

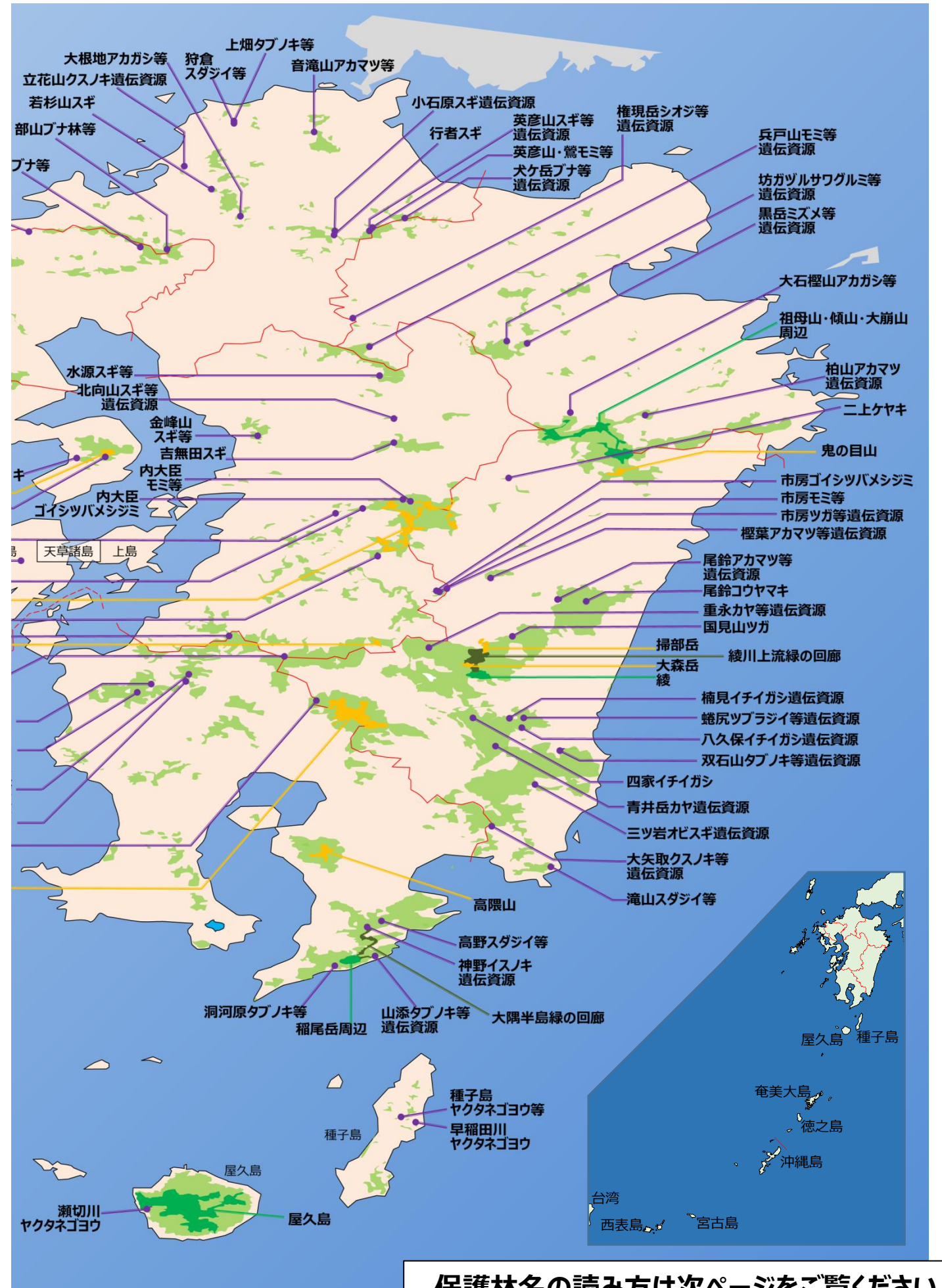
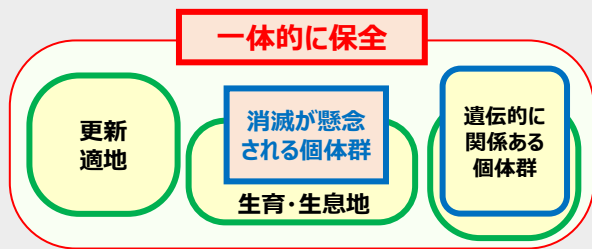
メタ個体群の保全

消滅のおそれのある個体群の存続のため、周辺の遺伝的関係性を持つ個体群、生育・生息地などを、飛び地であれ一つの保護林として一体的に保全

人為による生息環境等の創出

一時的な裸地の出現など、遷移過程におけるかく乱が個体群の存続に不可欠な場合には、森林施業により人為的に環境を創出
 [イメージ：希少な植物の生育地拡大を図るため、隣接する林分を伐採し、更新・増殖に適した光環境を創出]

メタ個体群 保全のイメージ図



保護林名の読み方は次ページをご覧ください

3. 九州・沖縄の保護林一覧

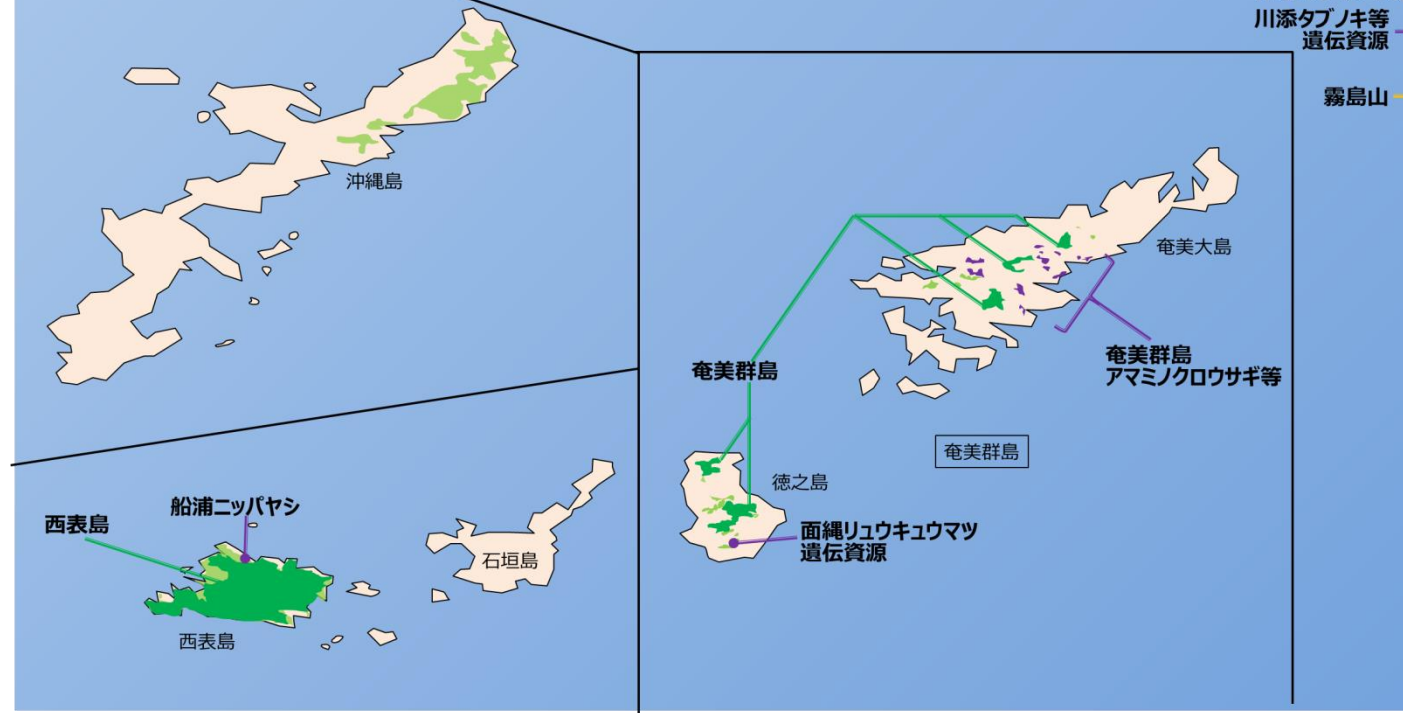
九州・沖縄の8県には、**90カ所、70,846ha**の保護林があります。
(平成30年4月1日以降)

※現在、保護林を当保護林名に移行する事務作業を行っているところで、当保護林名の適用は平成30年度からになります。

およそ対馬島とその属島を併せた面積と同じです



凡例	
■	森林生態系保護地域
■	生物群集保護林
■	希少個体群保護林
■	緑の回廊
■	その他国有林



2. 保護林における取組

森林生態系保護地域

やくしま 屋久島 (鹿児島) 山岳島の特異な環境による特異な植生

- 九州最高峰の宮之浦岳 (1,936m) をはじめ1,500mを超える山々が連座する急峻な地形
- 「月に35日雨が降る」(林芙美子「浮雲」)と言われるほどの多雨で多湿
- 低地部におけるクロマツから、山地中腹部のイスノキ、ウラジロガシなど、縄文杉に代表される樹齢千年以上のヤクスギヤツガ、モミなど、そして山頂部の亜高山帯におけるヤクシマダケ、ヤクシマシャクナゲまでと、南北に長い日本列島の典型的な植生が垂直に分布
- 平成5年、当保護林を約95%に含む区域が、日本初の世界遺産として登録
- 世界遺産条約締結国としての国際的責務を果たすため、各種保全対策を実施



あまみぐんとう 奄美群島 (鹿児島) 世界でも限られた地域にのみ成立する独特な亜熱帯常緑広葉樹林

- 奄美大島と徳之島内に設定
- 奄美群島でしか見られない特徴を持つスダジイ、イジュなどからなる**原生的な亜熱帯常緑広葉樹林**
- アマミノクロウサギやルリカケスなど大陸遺存*5の希少な固有種が多数生息する重要性の高い地域



「奄美・沖縄」世界遺産登録に向けて

- 林野庁では、環境省、文化庁、関係地方公共団体などと連携し、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産登録に向けた取組を進めています。
- これらの地域では大陸から分離し、島々が成立する過程で**独自の生物進化**が見られ、また国際的にも**希少な固有種**が生育・生息するなど、生態系・生物多様性保全上、非常に重要な地域です。
- 取組の一環として、平成28年3月に、奄美群島と西表島の各森林生態系保護地域について、**保全管理計画**を策定しました。この計画では、希少種や固有種の保護、外来種侵入対策などを具体的な保全・管理のあり方を定めた総合的な指針を取りまとめ、遺産登録に必要な保護担保措置を強化しました。
- 沖縄島北部地域も今後、平成28年12月に米軍訓練場区域が部分返還されたことを受け、保護林を指定することで登録候補地としての保護担保を図る予定です。

いりおもてじま 西表島 (沖縄) 東洋のガラパゴス 日本のアマゾン

- 亜熱帯林の原生的な自然がよく保たれている
- 山地はスダジイ、タブノキなどからなる照葉樹林
- 山頂部にはリュウキュウチクが密生
- 低地にはガジュマルなどの群落
- 河口域には海水の影響を受けマングローブ林が発達
- 特別天然記念物のイリオモテヤマネコ、カンムリワシが生息



いなおだけ 稲尾岳周辺 (鹿児島) 南限種と北限種の生育する原生的な天然林

- 標高の上から順にモミ、アカガシ、イスノキの群落
- タカクマミツバツツジ、シロモジなど分布が南限の植物が見られる
- 一方、南方系のオオコマユミ、ムツチャガラなど北限の植物も見られる

*5 大陸遺存：かつて島が大陸と陸続きであった時代に分布を広げ、その後島へと分断されたことにより島に取り残され、生き残っている種

森林生態系保護地域

綾 (宮崎) 日本最大規模の原生的な照葉樹林

- ・地形の起伏や標高差に応じた多様な植物相
- ・着生植物や草本植物も豊富
- ・種多様性の高い照葉樹林が低標高から高標高まで連続して分布
- ・綾の照葉樹林プロジェクトやユネスコの生物圏保存地域の中で核心地域をなす



照葉樹林の遠景



スタシイの板根

生物圏保存地域

- 【BR: Biosphere Reserves】
- ・世界遺産と同じユネスコが登録する保護地区で、日本ではユネスコエコパークとも呼ばれます。
 - ・人と自然との共生を実現している貴重な地域を登録しています。
 - ・日本では平成29年4月1日時点で、綾を含め7地域が登録されています。

生物群集保護林

九州中央山地 (熊本・宮崎) ブナ林や希少種、石灰岩による優良で特異な自然

- ・九州の中央部、脊梁の峰が連なる位置
- ・高標高地には太平洋型ブナ林がまとまって分布し、湿性タイプのブナ林も
- ・1,000m以下の低標高地は常緑広葉樹主体
- ・特別天然記念物二ホンカモシカ、天然記念物ヤマネなどの希少な野生生物が生息
- ・石灰岩地ではイワギクなど他に見られない特異な植物が生育

霧島山 (宮崎・鹿児島)

霧島固有種をはじめとした豊かな生物多様性

- ・高千穂峰 (1,571m) と韓国岳 (1,700m) を中心に、霧島山系として稜線を形成する地域
- ・各峰火山活動後の経過時間に幅があり、様々な植生遷移段階が見られる
- ・低地から高地への植生の垂直植生分布が見られ多様性に富む
- ・厳しい火山活動などによりキリシマミツバツツジなど「キリシマ」を冠する多くの固有種が生み出された
- ・ミヤマキリシマの大群落、ノカイドウや、アカマツの巨木林など重要な植物群落



霧島アカマツの巨木林

綾の照葉樹林プロジェクト

【綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画】

- ・綾川流域の豊かな照葉樹林の継承や、照葉樹林を核とした自然共生の地域づくりを目指し、
- 原生的な照葉樹林を保護
- 照葉樹林を分断する人工林などを照葉樹林へ復元
- より良い形で照葉樹林を後世に継承するための取組を推進しています。
- ・平成17年に九州森林管理局、宮崎県、綾町、(公財)日本自然保護協会、(一社)てるのはの森の会の5者で協定を締結し、協働しています。
- ・そしてそのプロジェクトエリアの核となる照葉樹林を保護しているのが3つの保護林 (綾、大森岳、掃部岳) なのです。

祖母山・傾山・大崩山 周辺 (大分・宮崎)

原生的な天然林がまとまり、貴重な動物が生息

- ・山地帯には太平洋岸の冷温帯湿潤気候で極相をなすブナ林
- ・山頂一帯の岩角にはヒメコマツが自生
- ・特別天然記念物のニホンカモシカ、河川には天然記念物の陸封されたイワメやアマゴが生息
- ・現在、当保護林を核とした区域について「祖母・傾・大崩生物圏保存地域」の登録を目指している



ニホンカモシカ



傾山

シカ被害対策

白岩山のシカネット (九州中央山地生物群集保護林)

- ・現在、全国でシカによる立木の皮はぎや下層植生の消失などの深刻な被害が問題になっており、九州でも対馬から屋久島まで、多くの保護林においてシカ被害が深刻化しています。
- ・これを食い止めるため、モニタリング調査によりシカ被害状況を把握し、必要に応じて、植生保護柵・ネットの設置や、捕獲などの取組を行っています。



霧島のニホンジカ

希少個体群保護林

九千部山ブナ等 (佐賀)、萱瀬スギ (長崎) など 希少な植物群落の保護

- ・希少化している植物群落などを保護する保護林として、例えば九州西部において希少化しているブナ、アカガシ林を保護している九千部山ブナ等希少個体群保護林がある
- ・林野庁では平成12年に全国の国有林内にある巨木から、「森の巨人たち100選」として100本を選定し、国民共有の財産として将来にわたって保全するよう努めているところで、現在、九州・沖縄の保護林内にも、「萱瀬スギ」など13本が生息



萱瀬スギ

内大臣ゴイシツバメシジミ (熊本)

市房ゴイシツバメシジミ (熊本)

御岳ツシマヤマネコ (長崎) など

希少動物の生息地保護

- ・ゴイシツバメシジミやツシマヤマネコなど、絶滅が心配されている希少な動物の生息地となっている国有林を保護
- ・林野庁では「希少野生生物保護管理対策」として、このような保護林区域を中心に、生息状況の把握や違法採集の防止のための巡視や、必要に応じて森林施業などによる環境管理を実施

ゴイシツバメシジミ

- ・幼虫がシンシランという希少な着生植物のつぼみを食べて成長するという特異な生態をもつチョウ
- ・近年は熊本県の2保護林周辺でしか生息が確認されていない



※どちらも環境省レッドリストの絶滅危惧 I A 類 (CR) *6、国内希少野生動植物種*7、天然記念物に指定

ツシマヤマネコ

- ・対馬のみに生息する野生のネコで、ベンガルヤマネコの亜種とされる
- ・生息環境の悪化や交通事故により近年、野生個体数が危機的に減少



鉄肥杉の巨木

三ツ岩オビスギ遺伝資源 (宮崎) など 貴重な遺伝資源の保護

- ・主要林業樹種や希少樹種の遺伝資源を確保
- ・希少個体群保護林のうち、特に遺伝資源の保護を目的とするもの (旧・林木遺伝資源保存林) には名称に「遺伝資源」がつく
- ・鉄肥杉 (オビスギ) は肥大成長*8に優れる、水切れが良い、抜け節*9が少ないなどの特徴を持つ杉の品種群で、木造船用の弁甲材などに使われてきた
- ・平成27年には「鉄肥林業を代表する弁甲材生産の歴史」が (一社) 日本森林学会による林業遺産に選定され、この三ツ岩の保護林も「江戸期に成立した鉄肥林業を代表する疎植林の景観を維持している林業景観」として認定

船浦ニツパヤシ (沖縄)

特殊な立地条件の下に成立している個体群の保護

- ・西表島の、満潮時に海水が浸る泥湿地帯に生育するニツパヤシの群落
- ・ニツパヤシはフィリピンやインドなどの熱帯域に分布するヤシ科植物
- ・当群落が自生地の北限であり、植物地理学上重要
- ・周辺のオヒルギによる遮光が原因で群落の衰退が危惧されることから、必要に応じて周辺植生の除伐を実施



ニツパヤシ

*6 絶滅危惧 I A 類 (CR) : ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い状態
 *7 国内希少野生動植物種 : 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (種の保存法)」に基づき指定される希少な動植物種
 *8 肥大成長 : 木が横に太ることで、肥大成長の早い木は年輪幅が太くなる
 *9 抜け節 : 肥大成長により枯れ枝が幹に巻き込まれ、板などに製材したときにその部分が節ごと抜け落ち、穴ができること